

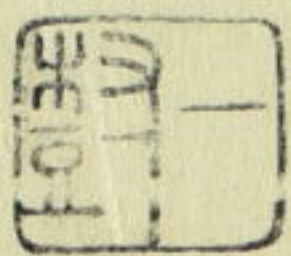
挿花之後得る事

凡草木者生也 天地之間 既うける其^一時^一
雨露能^ら乳^じけ^ず 小^く育^むせ^し 甚^く多^し 實^に法^がと^の 花^の
情^を 降^りす^る 申^え 神^の 信^を 保^つ 人^を 貴^む と
形^を 穢^く ち^か 臭^い せ^し 穢^く 臭^い せ^し 花^を と
こ^の 根^を 汚^く 親^し う^つ せ^し 花^を と^す 然^ら ば
よ^く 先^を 知^る 法^を と^す 由^り せ^し 紫^を 傳^ふ 挿^は 花^を と^す
た^ら ぬ^ら 其^の 大^に 染^る ぬ^ら 汝^に 信^を 志^す け^し て 後^に
挿^は 花^を と^す 汝^に 信^を 挿^は 花^を と^す ん 也

天保十二うー一巻

干松菴

一樹



目録

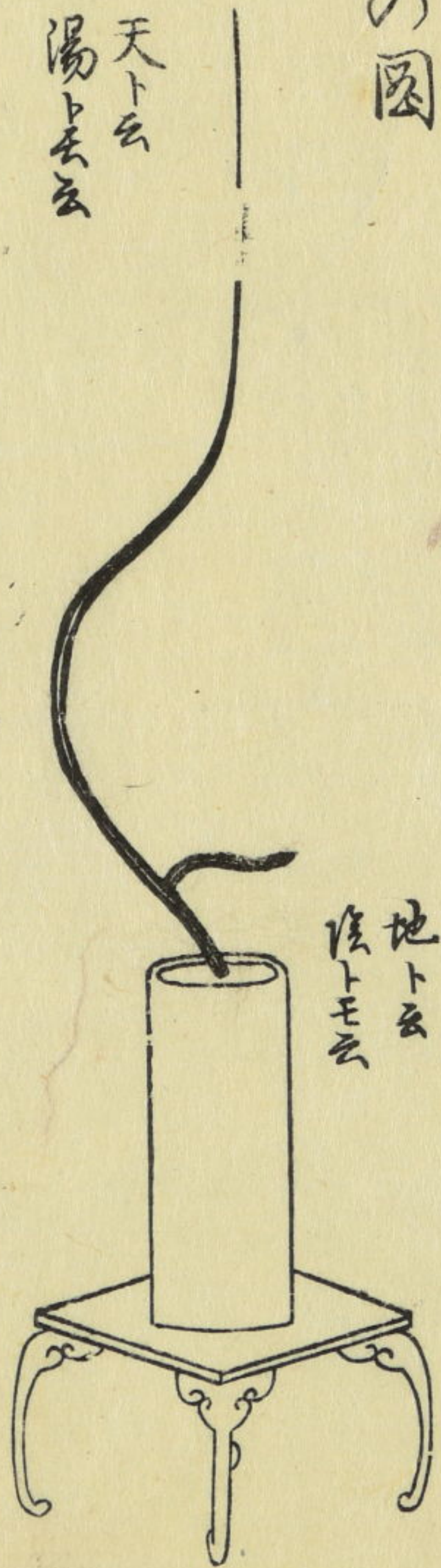
- 松挿様之事
- 陰陽二枝之事
- 真草三枝之事
- 同 五枝之事
- 同 七枝之事
- 流一枝之事
- 花系陰陽之事
- 山水挿分之事
- 蟬一枝之事
- 松配之圖之事
- 葉物紐方之事
- 色陰陽之事
- 五弁白充之事
- 養鳥之事

○花挿様之事

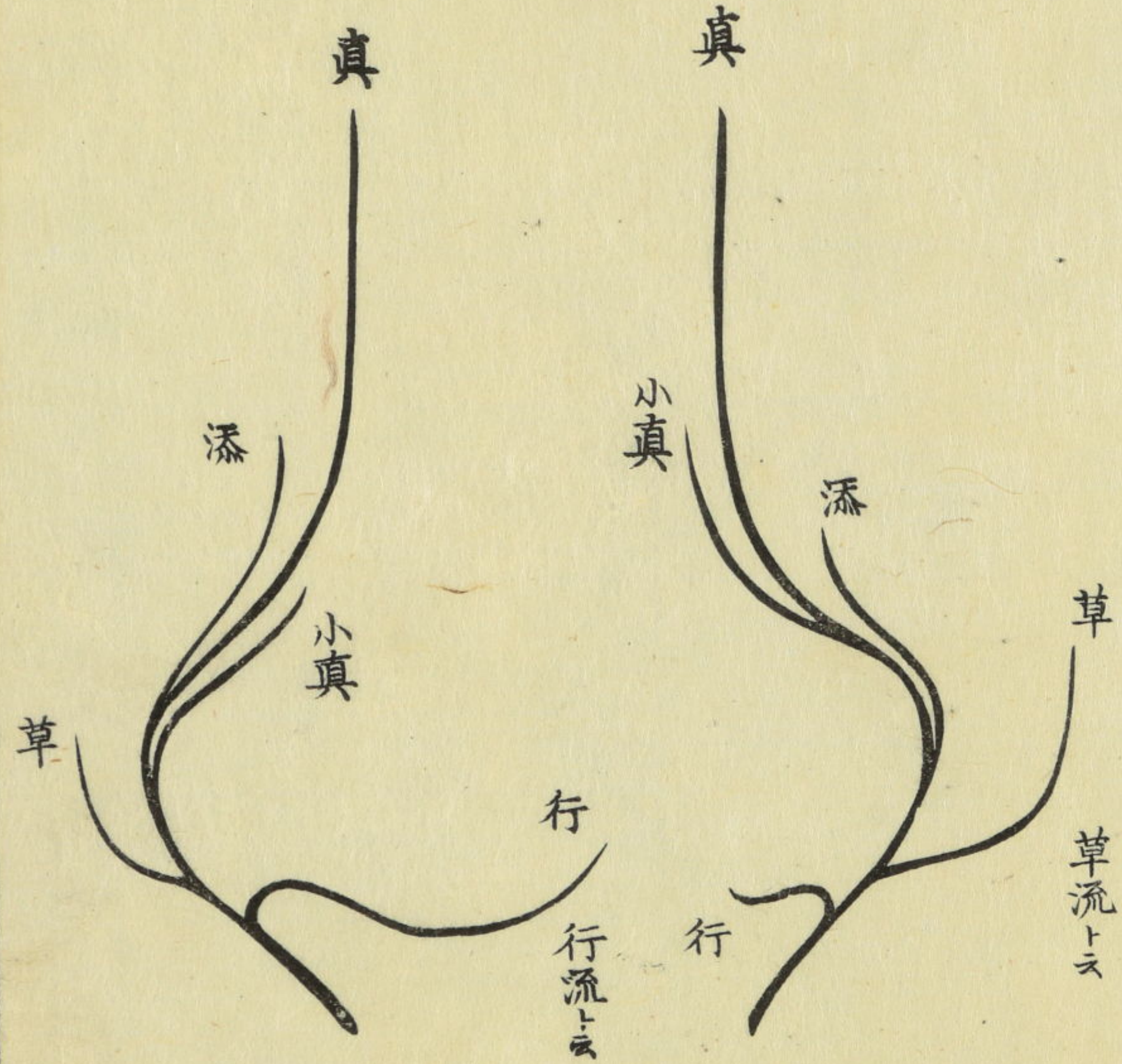
先花盤小花瓶に挿して太花が小あきゆへに
 水はさうふ布巾紙の房を以て花をさし
 直床に花を置紙花をさしよふかきち紙
 巾で出さしとさしとさしとさしとさしと
 花瓶に紙入さし水紙紙で花をさし
 花をさしよのせ挿あさして床の紙中
 とさし置さし

○陰陽吉平の事

二枝の図

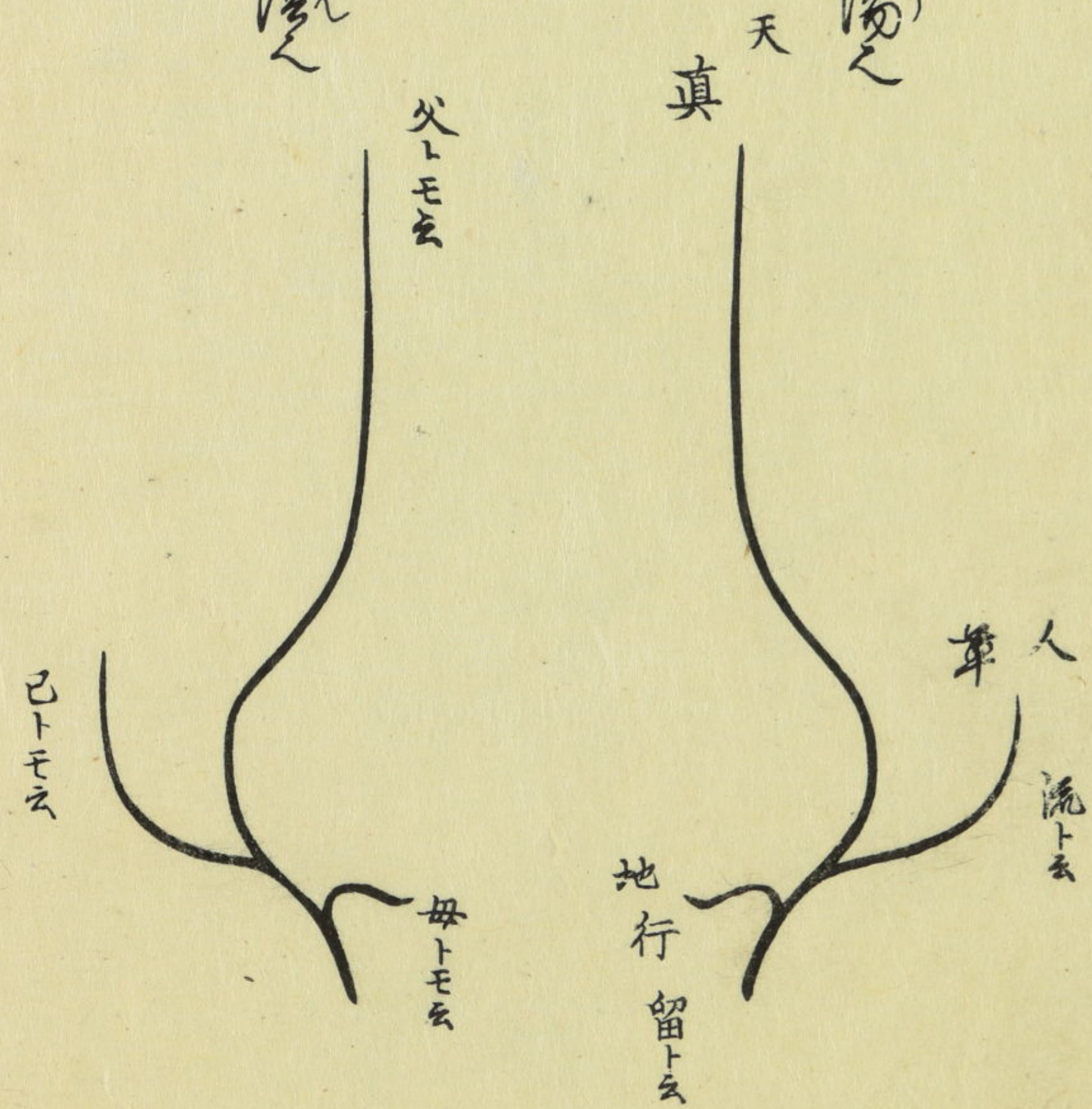


五枝の図

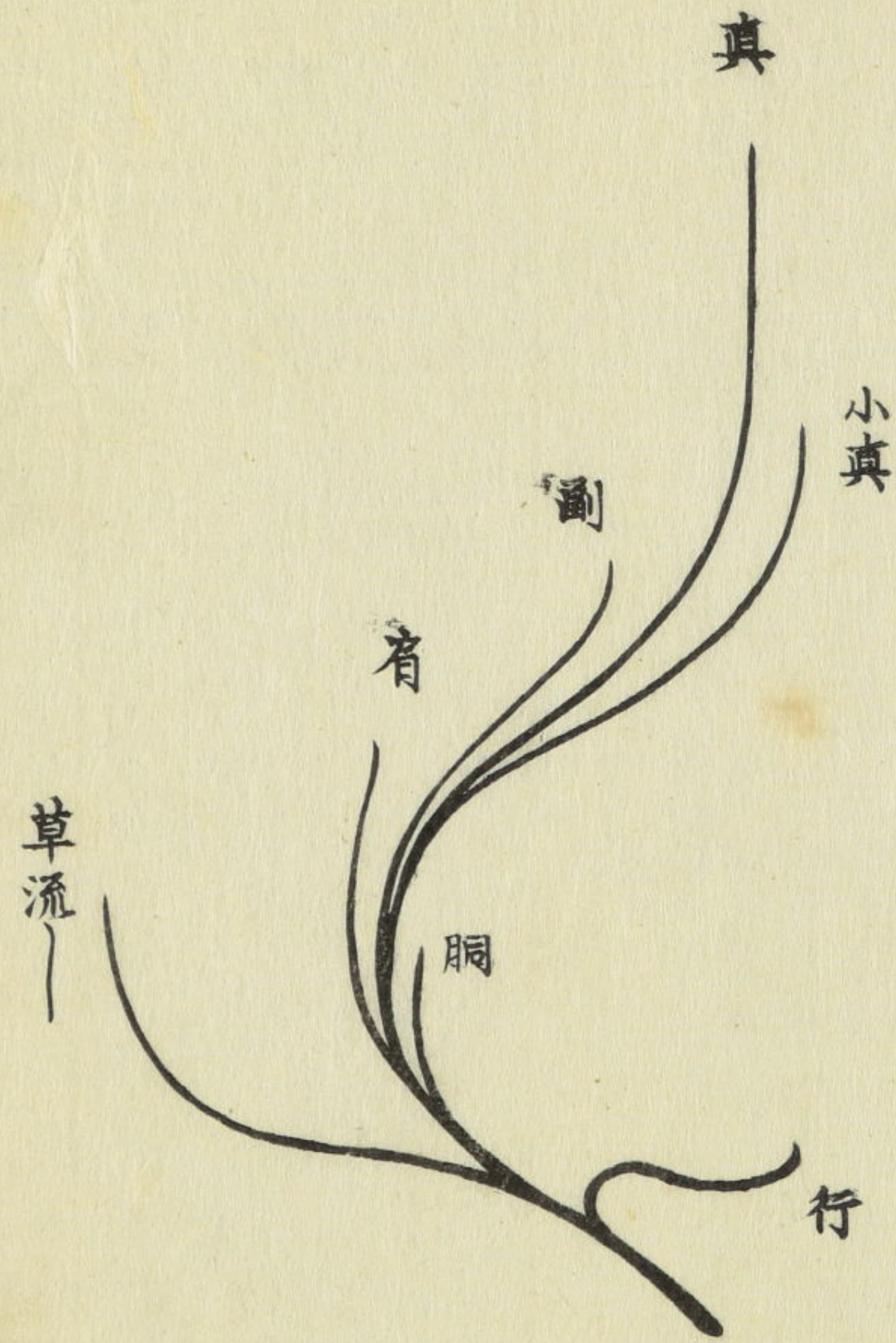


右子流

左勝手流



七枝の図



右
左

木火土金水

青黄赤白黒

中央東西南北



○流枝之事

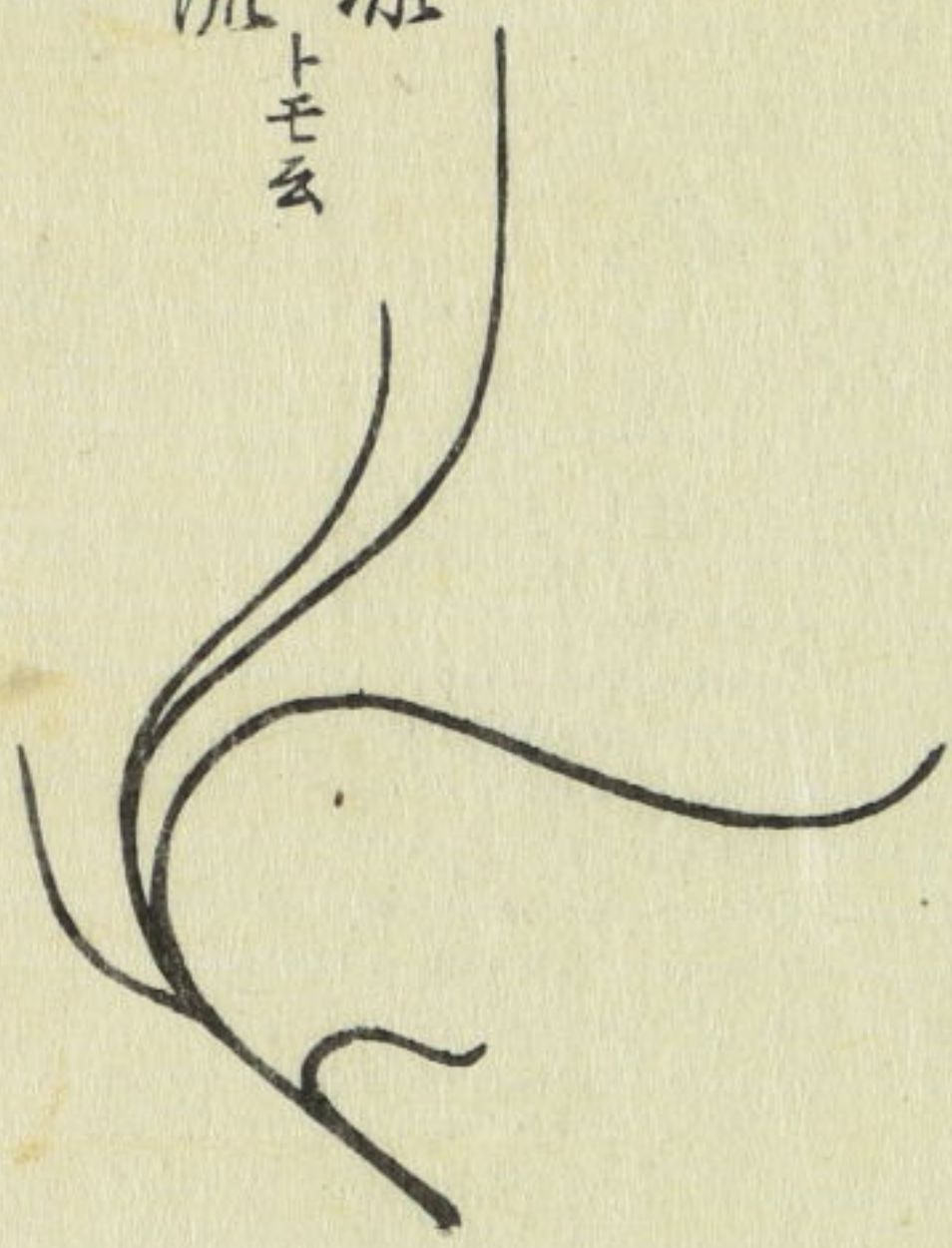
草流



行流



扣流
中流



肩流



流一 枝を異にせしむるは、此の如く、
 草流一 小挿時を、
 草紙みどり、
 片ありし、
 之、
 又、
 七寸、
 挿、
 是、

花の影はこころの影を知る



○花葉陰陽之事

夫陰陽を天地比し厚くして少く不器く
 夫と形一葉の表ハ陽なり葉の裏ハ陰
 花と葉と表ハ陽乃即ちさる陽なり
 蒼と陰形りまじく満年ハ陰なり
 花と葉と表ハ陽乃即ちさる陽なり
 夫と形一葉の表ハ陽なり葉の裏ハ陰
 花と葉と表ハ陽乃即ちさる陽なり
 蒼と陰形りまじく満年ハ陰なり
 花と葉と表ハ陽乃即ちさる陽なり

挿分



園乃おろそ挿分ハ陸と池とこころを法と
陸と陸池と池とこころを法と多とく柳に

かこつたものきざひを挿分古山と池と
まゝ一編此類ふ本と法中一挿あふ
くやと年とてをさみ挿分増え形と法と
草と中一挿た古より本と本と法とをさむ
り類一又花のものと花のものと葉と
をさむとては増え是草をさみ本をさむと
増えふよりたふ法とをさむと



丸の挿方



木をまみろて挿



○二の配りとして挿方善悪
草をまみろて挿

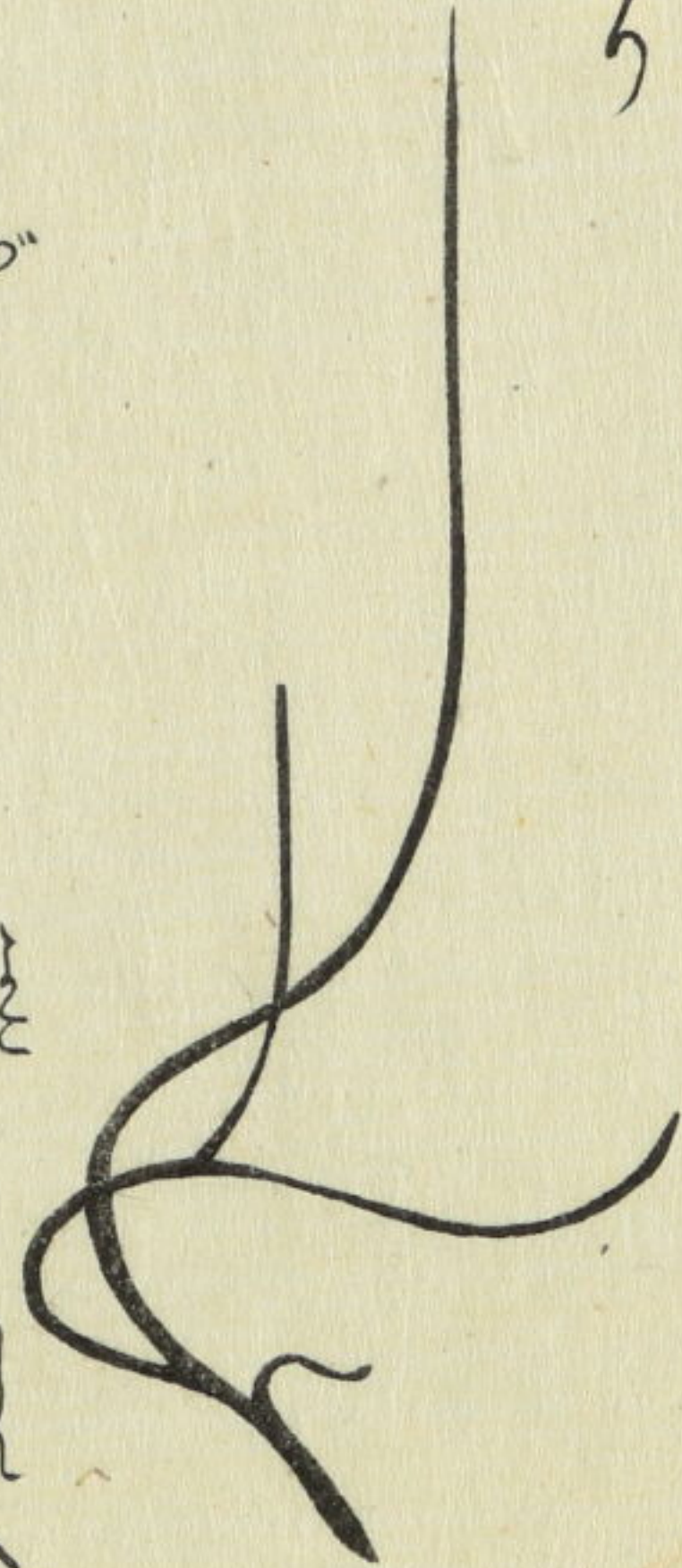
○婦人枝之事

枝と枝とて十文字ふ切き枝を性古より
法交と定婦人よりなる兄若女よりたふ
圖と所よりあ

十文字切



三三三



みさりとて六太図のごとく構う言(うら)さか紙
る若女申え婦人より

長鏡



挿花の筆本よりよきもの長経紙紙を
 挿すやせぬくべし紙紙入るや形を

窓切



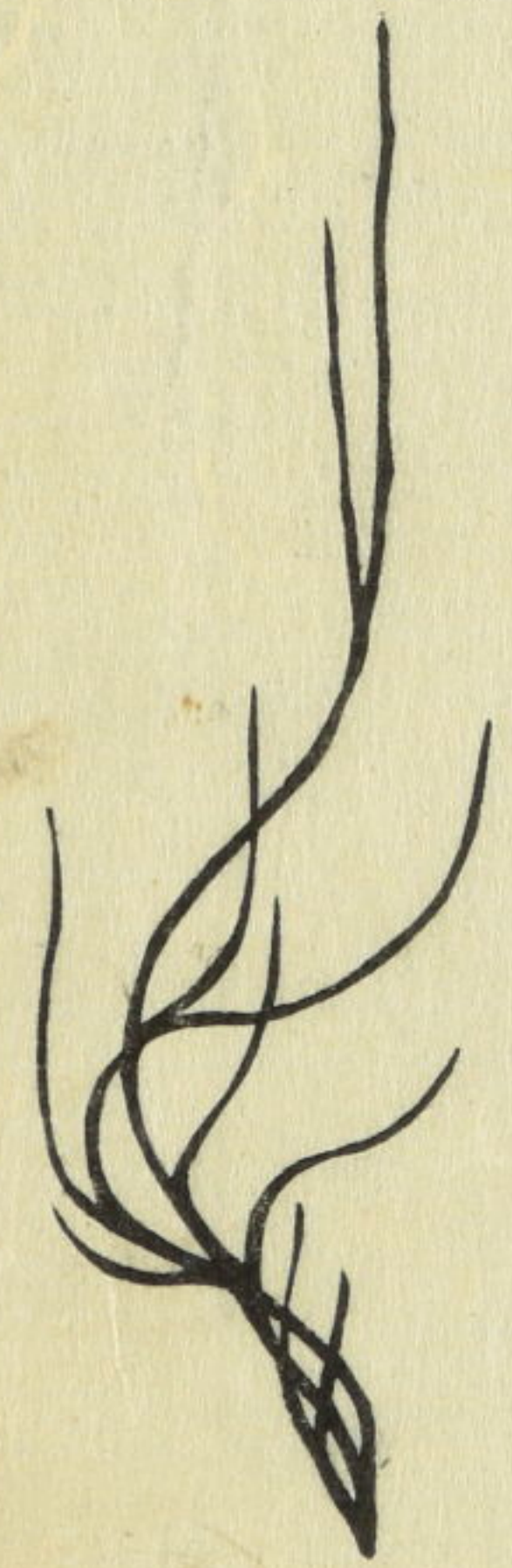
右の種一箱の内よ何はよきものを懸し
 枝葉よく梅のおとく成穴のゆきさきる紙
 入る

西岳



右の種一箱の内よ何はよきものを懸し
 枝葉よく梅のおとく成穴のゆきさきる紙
 入る

葉垣



菱垣とら 双方より枝の入蓋ひふなりとら紙
云形り

三刺

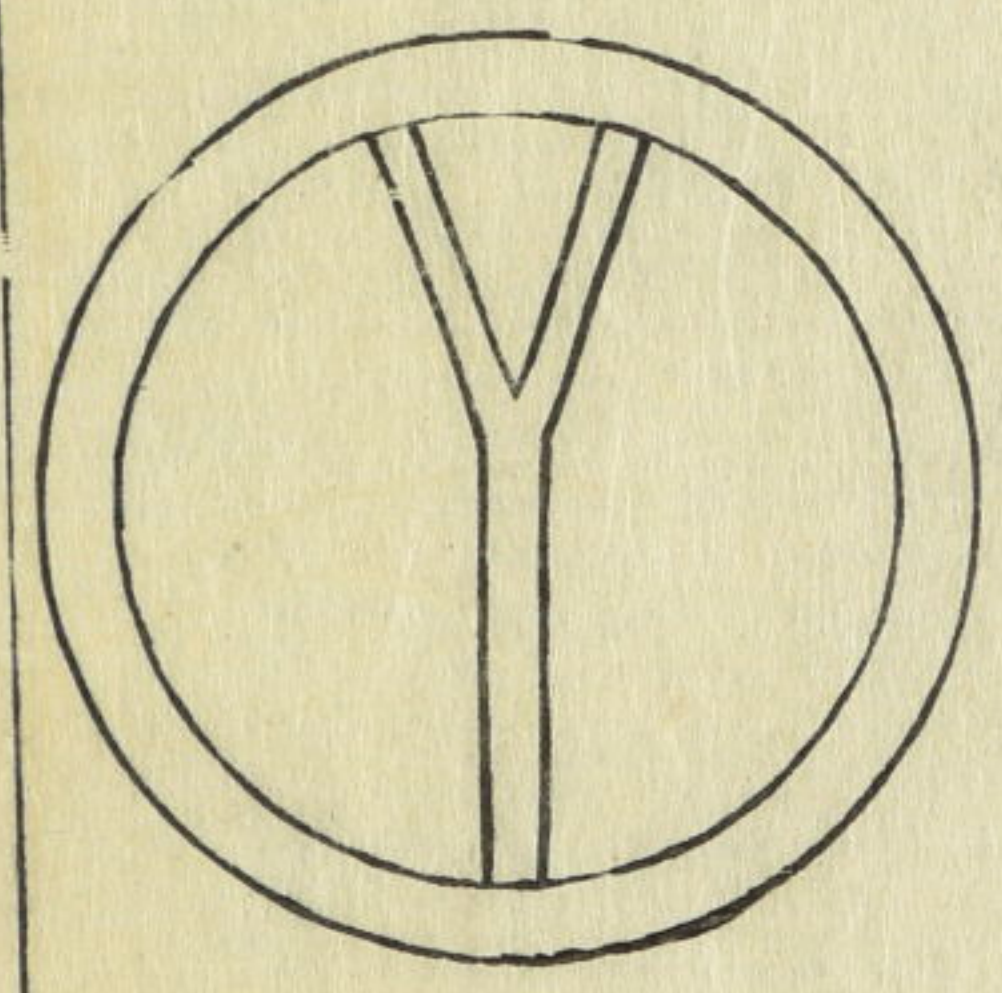


右のやうふ三本刺をト取ら挿入するさう
形り
此の垣枝較多くるといえとと七七形紙

よもやて挿形り取ら七本共草の出せ紙
見て挿入しきととを挿ハるさうく挿入
柳ハるさう形りの申え其のハるさう挿入

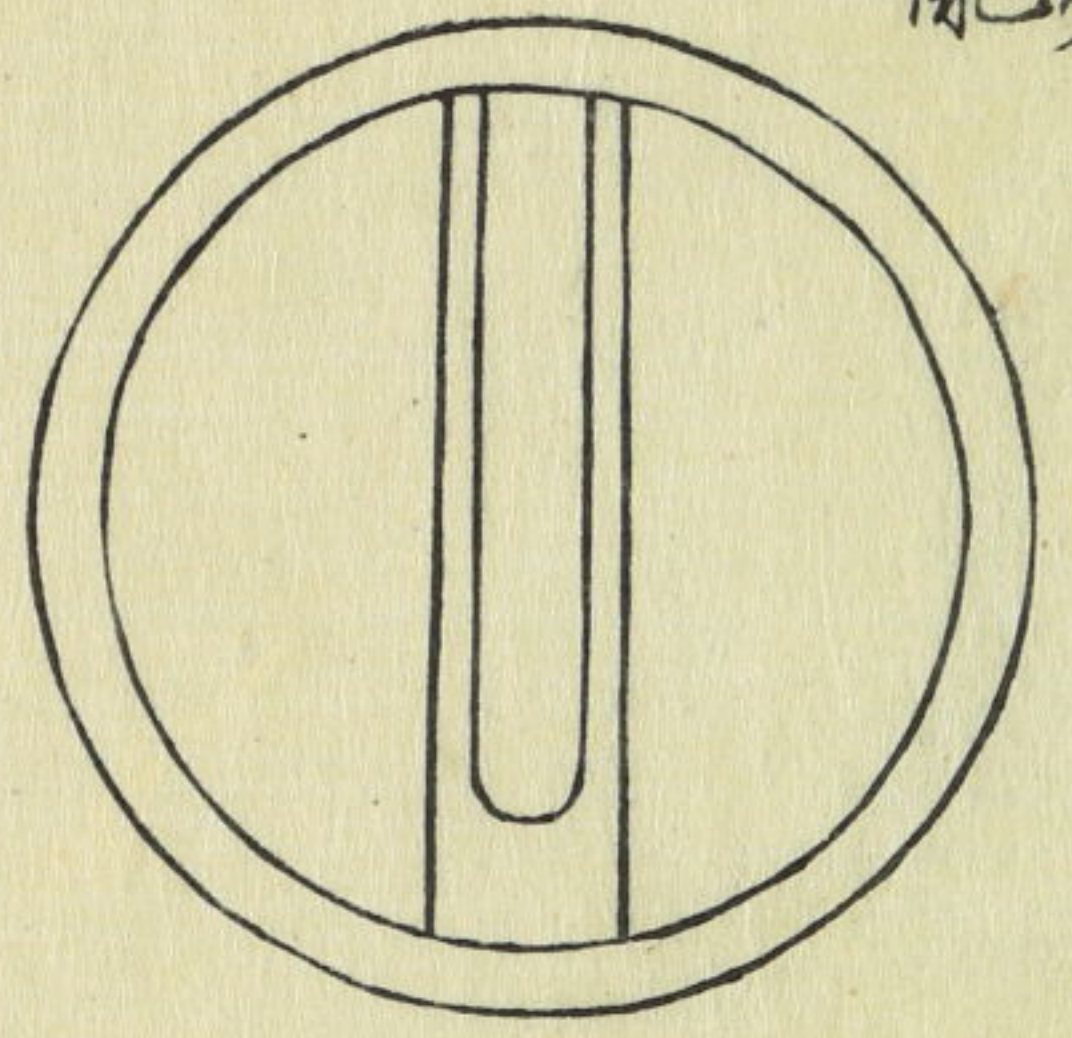
○古今草配と異

古の
死

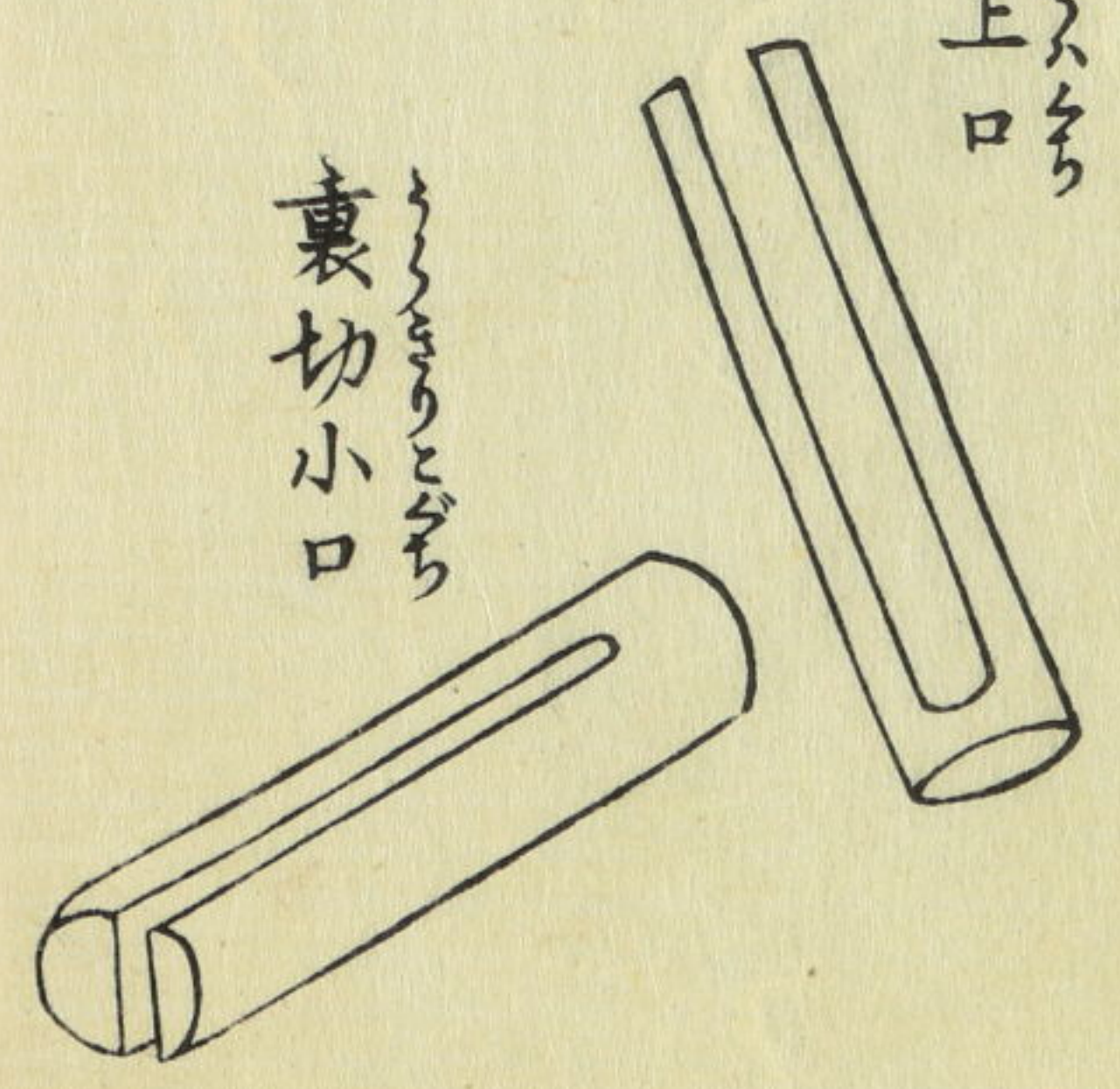


是ハ古江配^キ入^ル當時^トの配^キハ丸^マ小^コ切^キの次^ジ
 古^コ流^リの配^キハ丸^マ小^コ切^キの次^ジ
 古^コ流^リの配^キハ丸^マ小^コ切^キの次^ジ
 古^コ流^リの配^キハ丸^マ小^コ切^キの次^ジ
 丸^マ小^コ切^キの配^キハ丸^マ小^コ切^キの次^ジ

當時^ト配^キ



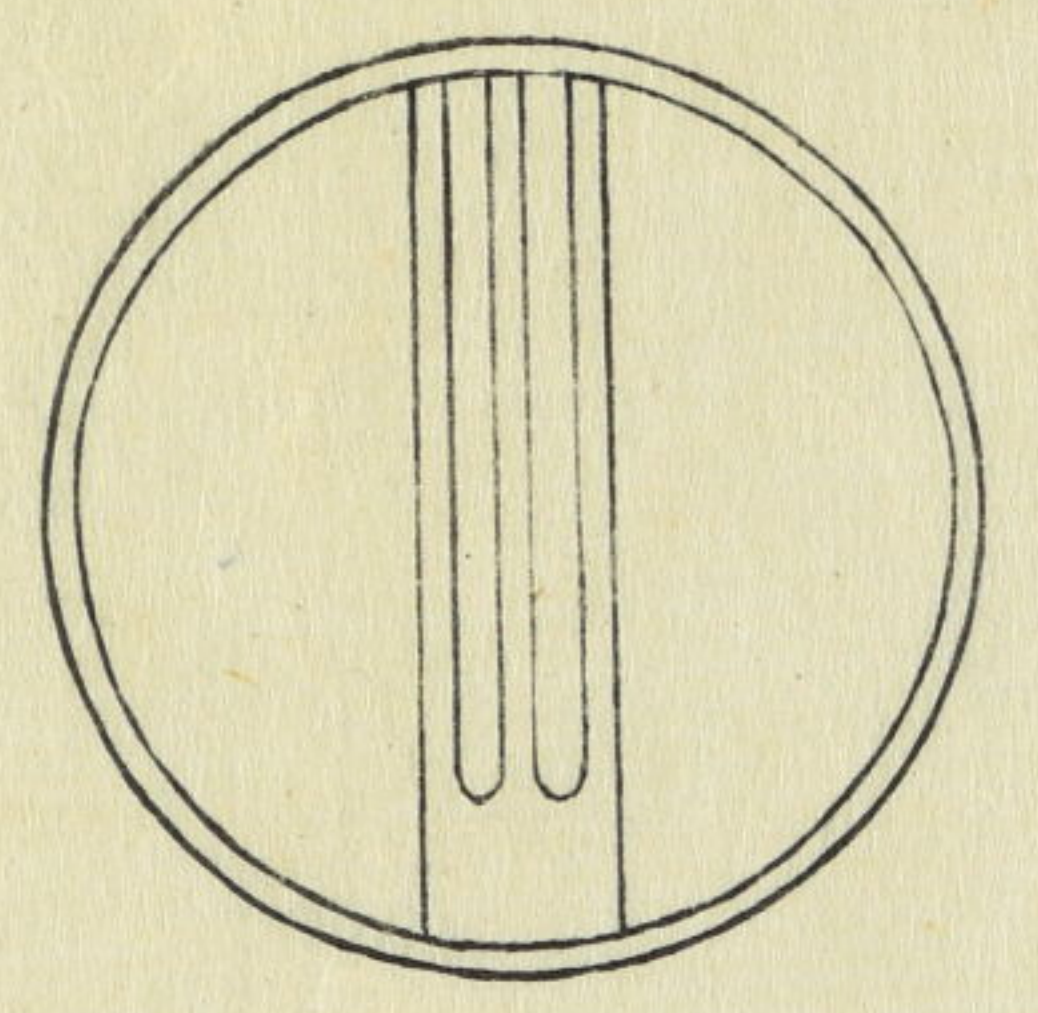
上口^{ウチ}



裏切小口^{ウラキリコ}

古^コ圖^トの柄^ハ小^コ上^ウ面^メ切^キ口^カ印^イ後^ノ又^マ裏^ウ切^キ小^コ口^カ
 昔^キの配^キは丸^マ小^コ切^キの次^ジ

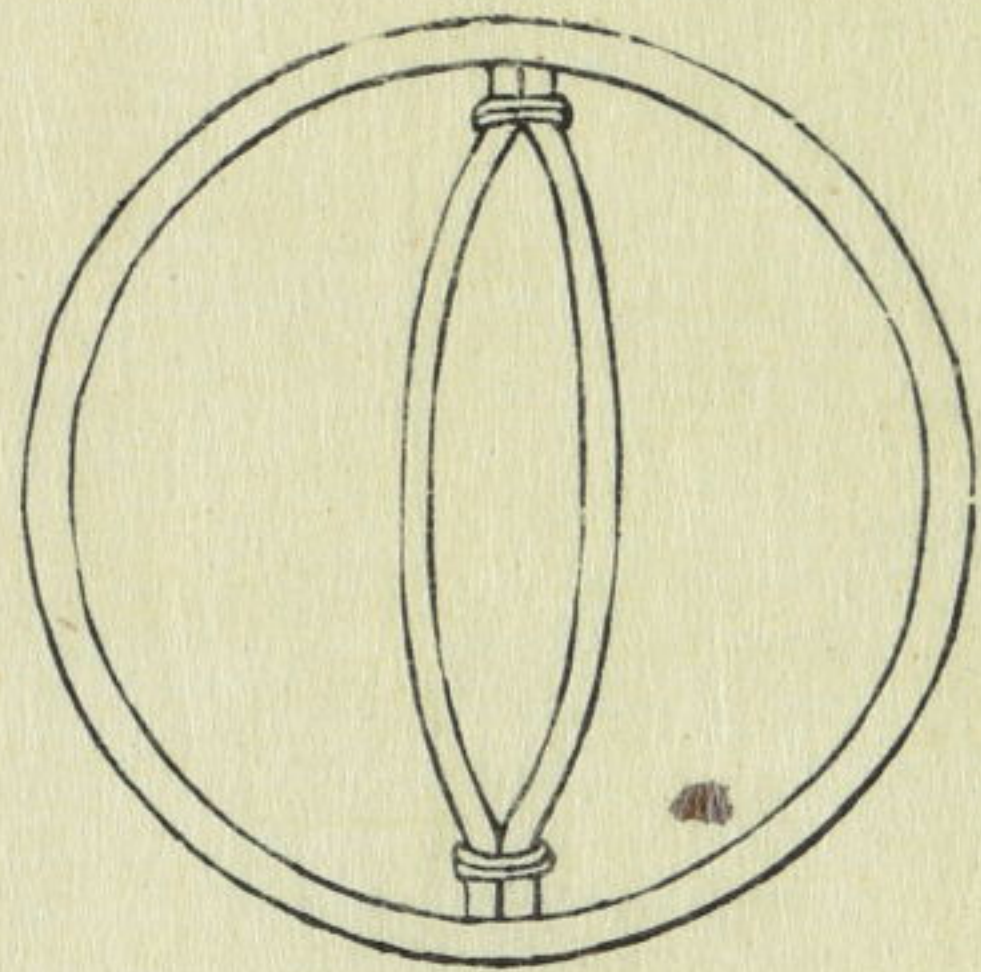
二^ニツ^ツ配^キリ



古^コの配^キは丸^マ小^コ切^キの次^ジ

ぬく二ツ配^{ふたつ}紙^{かみ}用^{もち}す^こ三色^{さんしき}少^{すく}挿^{さし}分^{ぶん}の^の時^{とき}六^む三^{さん}ツ配^つ
 あり又^{また}一^{ひとつ}ツ配^つより^{より}て^て三色^{さんしき}五色^{ごしき}七^{しち}種^{しゆ}を^を挿^{さし}る^るも^もゆ^ゆ

今配^{いま}



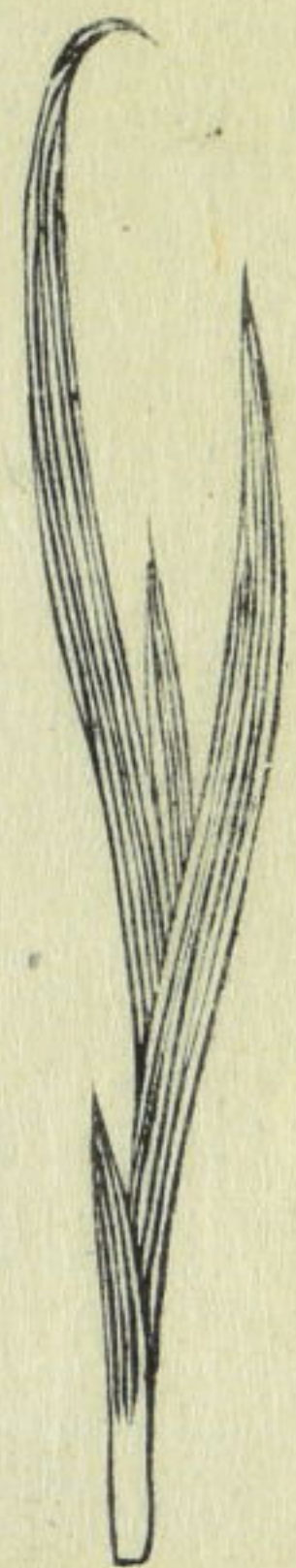
星^{ほし}る^る圖^ずの^のぶ^ぶと^と極^{ごく}と^と丸^{まる}と^と金^{かね}中^{ちゆう}取^とり
 ぬ^ぬれた^た支^し方^{ほう}糸^{いと}と^と結^{むす}び^び太^ふの^のぶ^ぶと^と形^{かたち}は^は

裏^{うら}切^{きり}は^はら^らせ^せま^まれた^た方^{ほう}と^と後^{のち}に^に廣^{ひろ}く^く挿^{さし}る^る
 形^{かたち}は^は一^{ひとつ}如^{ごと}く^くと^とう^うら^らし^しと^とて^てさ^さま^まら^らし^しぬ^ぬ

太^ふの^の糸^{いと}疎^そ網^{あみ}の^の管^{くだ}留^{どめ}の^の多^{おほ}分^{ぶん}は^は六^む三^{さん}ツ配^つ
 に出^いで^でる^る挿^{さし}る^る糸^{いと}は^は六^む三^{さん}ツ配^つ

○葉の形方之事

かきつばた



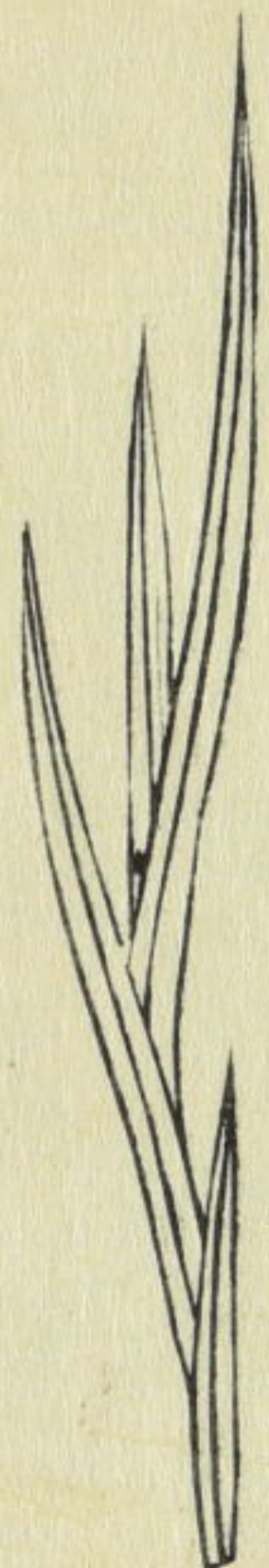
ひらまつ



あざみ



あやせ



あやせ



右圖の如くこの形つを云ふ中、ひらまつ、あざみ、あやせ、
 一、抽出の葉、或は又、形、何れも、葉の、
 形、より、あやせ、より、ま、かきつばた、より、あざみ、より、ひらまつ、
 ほど、遊葉、或は、つ、り、又、夏、を、暑、中、い、ひ、葉、
 と、して、其、の、遊葉、より、二、枚、引、て、挿、入、四、季、の、
 挿、入、方、を、考、え、や、う、ぬ、れ、目、に、ぬ、く、中、を、あ、ざ、み、の、
 形、に、あ、ざ、み、の、入、り、の、あ、や、せ、の、形、に、あ、ざ、み、の、
 ぬ、く、中、を、あ、ざ、み、の、新、葉、の、形、に、

○花色より陰陽之事

赤 紫 後 為 紅

靑 黄 白 陽 形 陰 形

内 六 揮 金 小 陰 湯 宜 辨 の 色 と 揮 扇 志 志
と 志 志 形 形 湯 と 湯 湯 と 陰 と 陰 と 揮 扇 志 志
志 志 志 志 行 行 行 行 行 行 行 行 行 行 行 行
思 念 如 如 小 二 舞 の 後 小 揮 扇

○ 五 節 白 糸 事

正月 松竹梅之類 二月 桃

五月 紫葛蒲 七月 松栞 剪秋羅

九月 菊

○ 養 物 事

○ 秋 海 棠

秋 海 棠 ハ 正 形 之 出 け け け 葉 の 赤 色 紙
と ち ち 柳 柳 と 三 分 紙 づ か ち 持 っ て 立 小
割 さ っ 紙 紙 掛 揮 扇

○ 藤

切 紙 焼 て 蒸 蒸 の 中 へ 酒 紙 次 序 七 葉 葉 之
酒 を 吹 っ て 吹 っ て 吹 っ て

○水菱

水菱ふひらづり紙摺を挿入し山椒とせむト
茶葉の中へ次で挿入す

○素吾

根より次とほろ焼下しむらぎ紙中へ茶葉の
中へ石炭紙入を名と次で挿入し保つる

○胡顔

胡顔をいりて織と好むより皮根より針を
挿入し茶葉の中へ人参とせむト次より

○竹

大竹をゆしと抜丁を紙せんと茶葉と挿入す
む毎朝水紙次より

○川骨

川骨の根を紙せむと茶葉五八箱と細茶を
水にせむら紙小葉上へ茶葉の人参丁を茶の類より

○茶

切らざる茶葉を志より茶よりなる茶葉
茶葉の人参紙

煮くドモヨク川骨のぬく水沸かして実上へ根奉へ
ふるまじ取らむと云ふ葉のむくぬ取らむ切時ハ今朝より

○寒作

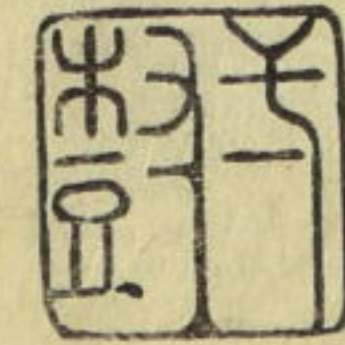
寒作ら切直ふ葉の煮りの申いりて煮ひむぐりさ
おん先大釜の敷へゆとみ合程ふ水紙入煮あてを中へ
入る葉の色うらぬゆふ直ふ揚押る五六日ハ
保つんむ煮汁ハ煮ひ敷種ゆり二十日種保つるまで又
葉の色赤くちりて十日も保つ煮ひるまでと云ふ
入て刻るなり

○秋

蘇ら種別へ石硫黄ふ水紙入を中へ挿らみゆり
いさのもせぬちうにより煮あを中挿るなり
おのふりちのぬる陸軍の敷へ根り紙焼押時
多のゆい先ゆきまると云ふなり
松の煮あを中挿るなり法敷種有と云ふなり
其門ふ入るなり學まばゆきなり

天保十二丑春

千松菴藏



遠列挿花字以學全三冊

諸挿花早指南中本二冊

挿花養草 全二冊

此書ハ花ノ本トシテ花ノ養方ヲ示シテ
と云ルベシ也
りつゝと云ル也

天保十二丑春發兌

東都書林

芝神明前

岡田屋嘉七

日本橋通二町目

須原屋茂兵衛

芝神明前三島町

和泉屋市兵衛

梓

